

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 26 年度

事業所番号	2794100020		
法人名	関西物流株式会社		
事業所名	グループホームアセス北梅田		
所在地	大阪市北区本庄西1-9-12 朝日プラザ2F		
自己評価作成日	平成 26年 7月 1日	評価結果市町村受理日	平成 26年 9月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvsoCd=2794100020-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvsoCd=2794100020-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 26年 7月 31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・いつも明るく笑顔の絶えない生活空間。広々とした共有スペース。
---------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内の居間は、広くて開放感があり、季節を感じる貼り絵を壁画にし、花や手芸作品、スナップ写真付きの便りを飾っています。大きいソファを2カ所に設置し、寛ぎのスペースを確保する等、ホーム内ではゆったりとした時間が流れ、落ち着いた雰囲気となっています。開設後5年が経過した事業所で、利用者は重度化していますが、ベテランの管理者を中心に、職員の退職もなく、チームワークも良好です。また、利用者は、職員の質の高いケアを受け、訪れるボランティアや子ども達との時間を楽しみ、ゆったりとした表情で過ごしています。
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アセス北梅田の運営理念を明記し、ヘルパーステーションに掲げ、常に意識し行動する様に指導している。	「情熱と愛情をもてる職業であることをほこりとします」「人を癒し、人を活かし、人と繋がる職業であることを誇りとします」「地域社会に貢献できる職業であることを誇りとします」をホームの理念とし、明示しています。日常の業務を通じて方針を職員間で共有し、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族や地域の人たちと共に支えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、町内の活動・行事には出来るだけ参加している。 毎日の買い物は近隣で行っている。	ホームには、歌体操やギター演奏、腹話術等、多種多様なボランティアの訪問があり、毎月定期的に利用者と職員が楽しむ機会となっています。盆踊りや敬老会等の地域行事には、積極的に参加しています。今秋、区主催の「ふれあいフェスタ」では、ホーム専用ブースにおいて、利用者のレクリエーション作品を展示する予定です。また、近隣の幼児教室との交流会や、地域の喫茶店へ行く等、関係は継続しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	北区の認知症の会等に参加し、意見交換、お手伝い等をさせて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の会議で施設の活動報告及び予定を話し、参加していただいた各人よりの御意見・アドバイスは取り入れる様努めている。	運営推進会議は、2カ月に1回開催しており、メンバーは家族代表・地域包括支援センター職員・地域の総合相談窓口担当者・同区内のグループホーム職員等で構成しています。会議では、利用者の生活状況やホームの活動状況等、詳細に記載した資料を参加者に提示して説明や報告を行い、意見や助言を得ています。家族代表も参加しており、ホーム運営について話し合いを行っています。会議で得た意見や助言は、ホームで話し合いを行い、運営に活かしています。また、参加者が講師となり、ホーム内研修を行っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員の方にも、施設内研修に参加していただき、アドバイスを受けて、実情を理解していただく様努めている。	区職員とは、普段から事故や利用者情報の報告や相談、情報交換などを行っています。地域包括支援センターや区内のグループホーム事業所とも、交流を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>            代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束をしない(言葉でも)介護に努めています。            玄関の施錠に関しては未だ解決していません。</p>	<p>職員は身体拘束のないケアを目指し、研修で人権や身体拘束について研鑽を深め意識の向上を図っています。前回の外部評価で指摘されたエレベーターロックについては、外出を希望する利用者には、職員と共に散歩に出るなど気分転換を図っていますが、複数の利用者に外出願望が強く、過去の失敗の経緯からロックを解消するまでには至っていない状況です。</p>	<p>エレベーターのロックについては、職員間で話し合い、利用者の外出願望の状況を見極め、日中の職員の目が行き届く時間帯に開錠することから始めてはいかがでしょうか。</p>
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員全員が虐待に対する意識を持ち、絶対に起こさない様、施設一致して取り組んでいる。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>            管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>施設にも後見人さんが増えてきており、対応をスムーズに行う為にも勉強している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時はもちろん御家族からの質問があればその都度説明を行い、理解していただける様に努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>御意見箱は常時設置を行い、施設に対して直接言えない場合に利用していただく様御家族様にもお伝えしている。</p> <p>直接伺う事が出来る時は、話を聞かせて頂き、内容によっては、職員及び会社の上層部に必ず報告する。</p>	<p>ホーム玄関に、意見箱を設置しています。家族の面会時には、利用者の暮らしぶり等を報告し、意見や要望を聞いています。また、行事の風景や利用者の写真を掲載した「アセス便り」を、毎月家族に配布・送付しています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の社内会議を設け、職員からの意見は代表者に届く様努めている。</p>	<p>職員は、定例の社内会議やカンファレンス、日常の業務のなかで要望や提案をしています。社内研修も計画的に実施し、外部研修にも参加しています。年に1回、施設長が職員と面談を行う制度もあります。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個々の労働意欲低下を防ぐ為の努力をしている。</p> <p>毎年のベースアップ。</p> <p>有給休暇取得の自由。</p> <p>サービス残業はさせない等。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を行っている。(3ヶ月に1回) 入社3ヶ月間は使用期間を設け、指導者をつける。 経験に応じて、社外研修講習を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・北区のグループホームとの交流を活発に行っている。又、大阪市のグループホームネットワーク研修に参加し勉強会や意見交換等を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークの際に御本人の性格や生活の様子を充分聞き取り、入居時に発生する困難を出来るだけ少なくする様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族から今までの生活の様子を詳しく聞き、又、家族の要望も聞き、家族が安心して親御さんを預けられる様に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ早く施設の生活や環境に慣れて頂く様、職員全員が支援方法を統一して混乱されない様、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GH 本来の生活の支援という形から出来る事は一緒に行って頂くという姿勢で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外出等許す限り家族と共に過ごす期会を持って頂く為のお声かけを常にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が来訪されるのは構わない事はお伝えしている。	重度の利用者が多く、事例は少ない状況ですが、職員は利用者にとって馴染みの友人や知人が来訪する支援をしています。また、年賀状を出す支援も行い、馴染みの関係を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間をさりげなく取り持ち、話をする機会を作り、寂しい思いをさせない様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居理由により、継続した関係は難しい場合の方が多いが、出来るだけ気軽に訪ねて下さる事が出来る関係であり続けたいと考え、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを汲み取る事は容易ではないが出来る限り本人らしく暮らして頂ける様に努めている。	利用者の思いや意向を聞き取り、介護日誌や申し送りノートに記録しています。また、フロア毎に実施するミニカンファレンスで、各職員は全利用者についてモニタリングする際に記録し、情報の共有化を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前の生活の様子などはアセスメントの段階で家族様から聞かせて頂き、職員全員が共有して援助に役立てる様に努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々得る事が出来た情報は、職員全員が周知し活かす様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>月1回チームカンファレンスを行い、家族の希望・意見も取り込み、その都度現状にあった介護が出来る様、介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画は3ヵ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。各職員はフロア毎に随時行われるミニカンファレンスの時に全利用者のモニタリングをし、副主任が作成する月毎のケースカンファレンスのモニタリング表に反映されています。計画作成担当者は、介護計画の見直し時に、家族の要望を入れる等して作成しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の記録は個々の介護日誌に特に気づいた事、注意すべき事は申し送りノートに記入し、日々の介護に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>個々のニーズに合わせて取り入れるものは早急に対応する様努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>色々な地域資源を活かし、楽しい生活が送れる様に支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医はもちろん、個々のかかりつけ医とも友好的な関係を築く様支援している。	全ての利用者が、医師による往診を週一回受けています。希望者は、内科やものわすれ外来等の協力医療機関より、医師の往診を定期的に受けています。また、訪問看護師の定期的な訪問看護も受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と契約しており、その都度情報交換を行い、連携を計っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時には定期的に見舞いに行き、担当医師、看護師、家族と情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に対する対応はその都度家人様、医師と話合う場を設けている。	ホームでの看取り実施の方針はありませんが、前回の外部評価以降、利用者が重度化した際の対応マニュアルを作成し、家族の意向を聞き取っています。現在は、利用者や家族の要望が多く、重度化した場合も可能な限りホームでの生活が継続できるよう、利用者の状況の変化に合わせて、利用者や医師、看護師、家族と話し合い方針を共有しながら対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時に備えて、職員全員が慌てない様にマニュアル作成等常々心掛けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーの設置、非常口の確保、確認など、年2回の消防避難訓練を行っている。	年に2回、消防署の指導のもとに避難訓練を実施しています。食料や水の備蓄についても実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の場である事を留意した上で、言葉かけや対応に気を配った支援に努めている。	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう職員の言葉かけや態度は明るく丁寧であり、やさしい雰囲気です。職員は、研修で接遇や人権について学び、意識の維持・向上に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の許せる範囲ではあるが、自己決定・希望を表せる事が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、おやつ時間以外は自由な時間を持って頂いている。行事に関しても声かけは必ず行うが強制はしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節を間違えていない限り、出来る方には自分で選んで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には食事の準備・お膳拭き・洗い物などを職員と一緒に手伝って頂いている。	朝・夕は、調理専任の職員が調理し、昼は仕出し弁当を提供しています。朝・夕の献立は、職員が栄養バランスを考慮した上で作成しています。一部の職員が、利用者と一緒に同じ食事を摂り、介助や見守りが必要な利用者には、一人ひとりのペースに合わせ、さりげなくサポートを行う等、食事が楽しみなものになるよう、支援しています。毎月、利用者の希望を反映したお菓子づくりを行っています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量はその都度確認・記録している。又、持病により量の加減は行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には声かけ、出来ない方にはその都度職員が声かけ・介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の記録を残し、一人ひとりのパターンに合わせて、声かけ・誘導を行っている。	職員は、排泄記録を取り、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しています。ほとんどの利用者が声かけや前誘導を確実に行うことで、トイレでの排泄ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をつけ、朝一番の水分摂取の声かけ、朝食時にバナナやヨーグルトなどを提供し便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介助なしの入浴が出来る方は現在おられない為、声かけ・誘導を行っています。拒否の強い方は入れる時に入って頂く事もある。	利用者は週2～3回の入浴を楽しんでいます。入浴を好まない利用者も職員が様々な工夫を施し、週2～3回の入浴ができています。冬場には浴室温度を適温にするため、また、利用者の足を温める工夫として、浴槽の湯を止めずに入浴しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めているが、居室では自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師・医師・看護師と連携し常に確認を怠らない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には出来る範囲で声かけを行い、色々な内容を役割・気分転換として手伝って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日最低1人は散歩及び買い物にお連れする。又、地域行事には出来るだけ参加して頂いている。	利用者一人ひとりのその日の希望にそって、日常的な散歩等、外出支援をしています。職員は、地域行事への参加や、買い物へ行く等、利用者の外出の機会を増やすため、今後も積極的に取り組んでいく予定です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人より問いがあれば「御家族から預かっています」と伝え、対応している。御本人が買い物を直接される事はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	申し出があれば自分で掛けられる様に支援し、又、職員が代わりに掛けてお渡りする事もある。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の照明・空調には常に気を配っている。又、廊下やフロアなど季節感を感じていただく為に写真や創作物等を掲示している。	2ユニットの居間が一体となって、広く開放感のある空間になっています。居間には、季節感のあるはり絵を壁面にし、花や手芸作品、書道作品、行事写真、スナップ写真等を掲載した便り等を飾っています。居間の両サイドには、それぞれ大きいソファを設置し、寛ぎのスペースを確保しています。また、ゆったりとした時間が流れ、共有空間は落ち着いた雰囲気になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは自由に行き来する事が出来、本人のお気に入りの場所を作ったりされるのを支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のレイアウトは御家族様・本人に任せている。	窓には障子があり、広くて明るい和風の居室となっています。少し持ち込みが少ない居室もありますが、家族との思い出のある整理ダンスや飾り棚、ソファー、家族の写真、仏壇、テレビ、ぬいぐるみ、花などを飾り、衣装掛けには外出着がかかっているなど、個性的な居室があります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人で出来る事は頑張っている。出過ぎた介護は行わず、安全を考慮しつつ見守っていく。		